

RX450h(GYL10/15/16)

ブレーキフルード交換要領

■対応車種:RX450h(GYL10/15/16)

■対応年式:平成 21 年 1 月～

G-scan を使用して行う RX450h(GYL10/15/16)のブレーキフルード交換要領を記載しますので、参考にしてください。



※注意※

- ・ブレーキフルードの交換は車両停止状態、車両が正常な状態(ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時)で実行してください。
- ・エア抜きを行う際はシフトレバーPレンジでパーキングブレーキを効かせた状態で作業を行ってください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで行ってください。エアが完全に抜けていないと車両に悪影響を及ぼすだけでなく、ブレーキ回路に支障をきたし、正常なブレーキ操作ができなくなり、交通事故を引き起こす原因となります。
- ・交換中はリザーバタンク内のブレーキフルードが常にリザーバタンクを満たしている状態にしてください。
- ・リザーバのブレーキアクチュエータホース No.2(ブレーキブースタポンプ ASSY-リザーバ間ホース)取り付けポートよりフルード液面を低下させて チューブ内にエアが混入すると、フルード交換作業中のポンプモータ駆動によりブレーキブースタポンプ ASSY 内にエアが噛み込み、エア抜きが困難となります。
- ・フルード量調整は IG ON の状態でフルード液面が MAX レベルになるよう調整してください。

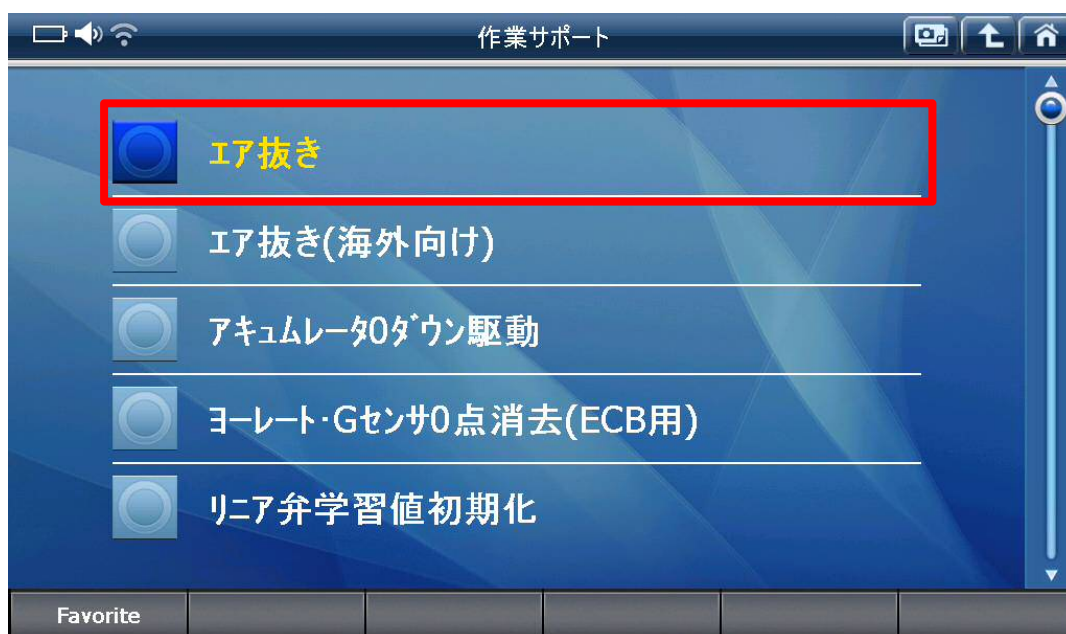
ブレーキフルードの交換要領

1. IG OFF の状態で、G-scan を DLC3 コネクタ(OBD16 ピン)に接続してください。次に、ブレーキブースタポンプコネクタ2 個を切り離します。
2. IG SW ON の状態で、G-scan の電源を ON にして車種、システムを選択してください。選択するシステムに関しては『ABS/VSC』又は『ABS/VSC/ARS』を選択してください。

3. 診断メニューにおいて、『作業サポート』→『エア抜き』の順番で項目を選択してください。エア抜き項目が表示されます。

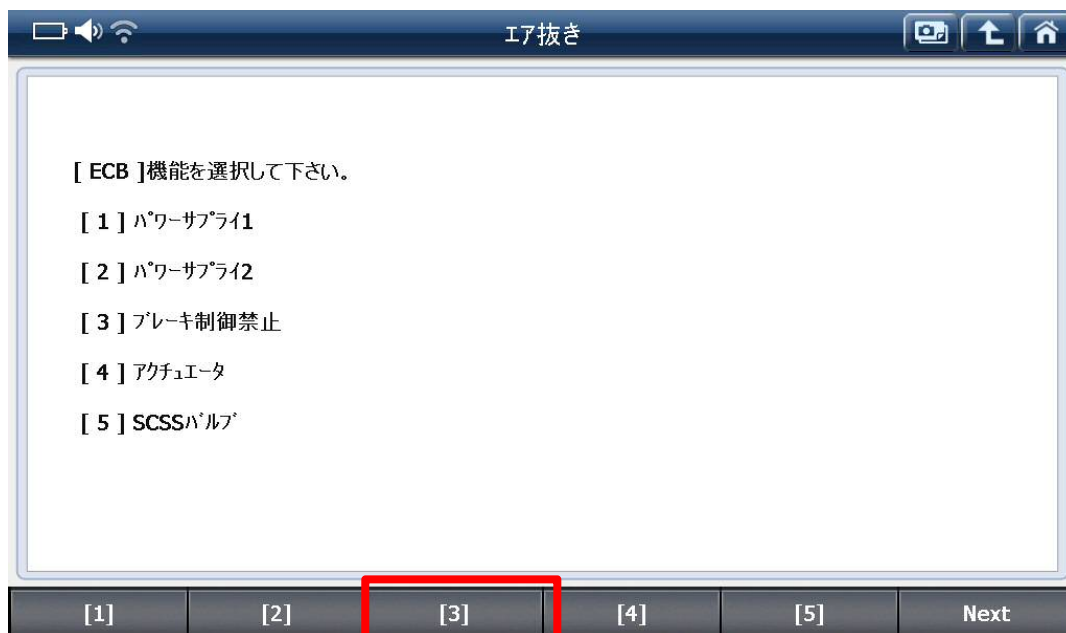


〈図: 作業サポートを選択〉



〈図: エア抜きを選択〉

4. 『ブレーキ制御禁止』を選択して、実行してください。



〈図:ブレーキ制御禁止を選択〉



〈図:ブレーキ制御禁止を実行〉

5. ブレーキペダルをペダリングし、フロント右、左のブリーダプラグよりエア抜きを行ってください。

※注意※

- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行ってください。
- ・エア抜きは右、左の順に行ってください。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク： $8.3\text{N}\cdot\text{m}$ { $85\text{kgf}\cdot\text{cm}$ }

6. G-scan で実行した『ブレーキ制御禁止』を解除してください。次にIG OFF の状態で、ブレーキブースタポンプコネクタ2 個を接続してください。

7. IG SW ON の状態で、手順2～4と同様に再度『ブレーキ制御禁止』を実行してください。

8. ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、ポンプモータおよびソレノイド駆動中にリア左のブリーダプラグよりエア抜きを行ってください。

エア抜きはブレーキペダルをペダリングせず、踏み込んで保持した状態で行ってください。

抜き取り終了時、ブリーダプラグを締め付け、ブレーキペダルを開放します。

※注意※

- ・ソレノイドの駆動は約 30 秒を目安にして、ペダルを離して停止してください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行ってください。
- ・エア抜き中に ECB ウォーニングランプ点灯、ブザーが鳴りますが異常ではありません。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク： $11\text{N}\cdot\text{m}$ { $110\text{kgf}\cdot\text{cm}$ }

9. ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、ポンプモータおよびソレノイド駆動中にリア右のブリーダプラグよりエア抜きを行ってください。

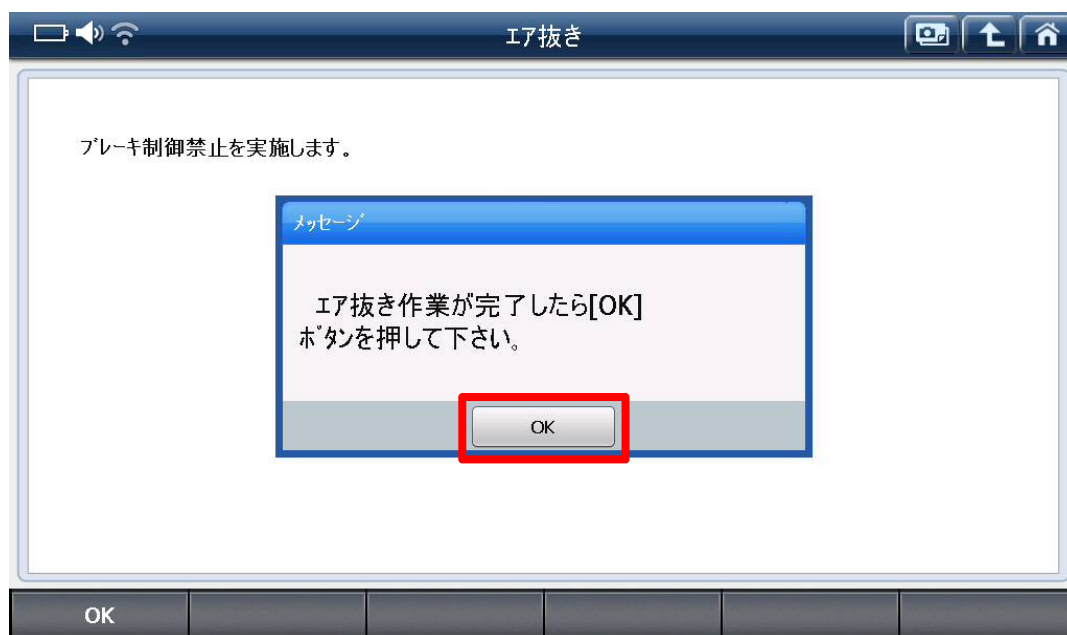
エア抜きはブレーキペダルをペダリングせず、踏み込んで保持した状態で行ってください。

抜き取り終了時、ブリーダプラグを締め付け、ブレーキペダルを開放します。

※注意※

- ・ソレノイドの駆動は約 30 秒を目安にして、ペダルを離して停止してください。
- ・エア抜きはエアが完全に抜けるまで繰り返し行ってください。
- ・エア抜き中に ECB ウォーニングランプ点灯、ブザーが鳴りますが異常ではありません。
- ・ブリーダプラグの締め付けトルク： $11\text{N}\cdot\text{m}$ { $110\text{kgf}\cdot\text{cm}$ }

10. G-scan で実行した『ブレーキ制御禁止』を解除します。



〈図:ブレーキ制御禁止の解除〉

11. IG ON の状態でフルード液面を MAX レベルに調整してください。

12. G-scan の診断メニューにおいて『自己診断』を選択して記憶された故障コードを消去してください。